

第92回例会

ドイツの民主主義教育についての報告

— 「対話」とは何か：多様性の尊重と合意形成 —

■ 話題提供者 ■

稲垣みどりさん（山梨学院大学） 苫野一徳さん（熊本大学）
岩内章太郎さん（豊橋技術科学大学） 三輪 聖さん（テュービンゲン大学）

■ 日時 ■

2023年 7月1日（土） 20：00～22：00（日本時間）

オンライン（Zoom）開催

※参加費無料 要事前申込

お申込は[こちら](#)から

※非会員の方もご参加になれます。



2023年3月上旬に、私たちは科学研究課題「共生社会での市民性形成のために日本語教育は何かができるかー現象学的対話実践の試み」（代表：稲垣）の一環として、ドイツの学校教育機関3つを訪問して民主主義教育の実践を視察する機会を得ました。本企画は、私たちの目を通してその内容を報告します。また、単なる報告だけでなく、ドイツの民主主義教育の文脈で行われていた「対話」の授業の見学と現地の先生方とのディスカッションを通して私たちが考えた、「なんのための対話か」という、「対話」の本質をめぐる問いについて、参加者のみなさんと考え、議論したいと思います。

本企画のメインは、ドイツの民主主義教育に触発された、教育における「対話」活動の意義についてディスカッションすることです。そこで、私たちの「報告」は前半1時間以内におさめ、後半1時間ほどかけて、参加者のみなさまとじっくり議論する時間を取りたいと思っています。「対話」とは何か。「対話」の目指すものは何なのか。私たちと熱い議論を展開したい方々のご参加をお待ちいたします。

【当日の構成】 ※あくまで「予定」なので、後で変更する可能性もあります

はじめに（科研趣旨説明）ー稲垣（5分）

- 1) ドイツの学校教育制度およびドイツの民主主義教育について（三輪）（10分）
- 2) ドイツの職業訓練校の学校視察についての報告（岩内）（5分）
- 3) ドイツの学校教育における最近ドイツに移住した生徒のドイツ語の授業の報告（稲垣）（5分）
- 4) ドイツの民主主義教育について考えたこと（苫野）（15分）

発題：何のための対話かー多様性の尊重と合意形成

- 5) 話題提供者4名による発題をめぐるディスカッション（20分）
- 6) 参加者を交えてのディスカッション（60分）

お問い合わせ：言語文化教育研究学会企画委員会（project@alce.jp）